

黄金律

校長 藤原 恵美

今年度最後の聖心だよりとなりました。この一年を振り返りますと、日々の授業、運動会、発表会、クリスマスウィッシングなどの様々な行事をとおして、1年前にはできなかったことができるようになり、子どもたちは心身ともに大きく成長したと感じております。こうした成長には、ご家庭での温かい励ましや見守りがあったからこそと、心より感謝申し上げます。

マタイによる福音書7章12節に「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」というイエス様の言葉があります。ゴールデンルール、黄金律と言われる有名な言葉ですが「確かにそうだ。すぐ実行しよう」とは思いにくいのです。人によってしてもらいたいことは違います。電車やバスで席を譲ろうとすると断られ気まずい思いをする。寂しそうにしているので話しかけたら、一人でいたいと言われる。良かれと思ってしたことでも、相手にとっては迷惑だったり、余計なお世話だったりすることもありますから、黄金律よりシルバールール、孔子の「己の欲せざるところ、他に施すことなかれ」のほうがなじみます。この「自分が嫌だと思ふことは人にしてはいけない」は「ひと様の迷惑になってはいけない」とセットになって、小さいときから教えられてきました。人に迷惑をかけないのは、謙虚で周囲を思いやるということによいことです。しかし、迷惑をかけないことに真面目になりすぎると、自分に厳しく他人にも厳しくなってしまうのではないのでしょうか。自分は迷惑をかけないように我慢しているのに、あの人は自分勝手に許せないと不満を持ったり、失敗したら迷惑をかけると思って、チャレンジに消極的になることもあるでしょう。

完璧な人間は一人もいません。失敗はつきものです。インドには「あなたは人に迷惑をかけて生きているのだから、人のことも許してあげなさい」ということわざがあるそうです。思えば人は生まれたときは何もできなくて、すべての世話をされ生きていました。人間は一人では生きられません。そして不完全な存在ですから、お互いさま。迷惑をかけることを怖がらなくてよいのでしょうか。大人でも失敗します。まして未熟な子どもは失敗して迷惑をかける存在です。自分の不完全さを受け入れて、お互い様の気持ちで人を許す、寛容な心を持ちたいし、子どもたちにもこの心を育てたいと思います。

こう考えてくると、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という言葉が心にストンと落ち着きます。「迷惑をかけないように、自分がされたくないことを人にしない」に留まるのではなく、だれかのために、自分の用事はわきに置いて、足を止め、目を注ぎ、耳を傾け、寄り添う。そのような生き方をしていきなさいと言われていくと感ずります。この箇所は「求めなさい。そうすれば与えられる」に続く個所で、この黄金律の前に「まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。」とおっしゃっているのです。神さまは私たちに良い物をくださっている。神さまに愛されているのだから、安心して、周りの人に良いものをお届けする。開かれた心で、おおらかに周りに人々とかかわっていきたくて願います。

(文中写真：学習発表会より)



6年能教室



* 注文お弁当について

年度内にする4月分の注文は、現在の学年・学級名・番号で申し込んでください。

例) 3年ばら組35番 聖心花子 ⇒ 3年ばら組35番 聖心花子

* 来年度する5月以降の注文は、新学年の学級名・番号でお申し込みください。

* BLEND について

3月4日までにアレルギー調査、その他は3月中に入力・確認をお済ませください。



学習発表会には大勢の皆様にご参観いただき、ありがとうございました。子どもたちの生き生きとした表情、そして相手に自分の思いを伝えたいという精一杯の姿は、何度経験しても胸にぐっとくるものがあります。自然と涙が溢れてしまったと感想を寄せてくださった保護者の方も多く、子どもたち自身も頑張る姿を見てもらう喜びと共に、自分たちも人を喜ばすことができる存在であることに気づいたのではないのでしょうか。

学習発表会に加えて、年度末はそれぞれの学年が学びと生活の締めくくりを行います。5、6年生は1年かけて個々の問いを深く追究する活動に取り組み、「みこころ研究発表会」「卒業研究発表会」の形で保護者の方にご覧いただきました。自らの経験や学び、気づきの中から生まれた問いの答えを見つけることは思った以上に大変だったようですが、この研究が職業選択へと繋がったり、仕事の上で生かされたりしている卒業生もいます。聖心ではサードステージになると、ライフデザイン教育を取り入れています。自分の適性を知り、様々な職業につく先輩たちの話を聞き、校内外の研修や留学に参加しながら自らの歩む道を見つけていきます。それは、ただの職業、大学選択とは違い、自らの生き方を見つけていく過程です。初等科では、特にキャリア教育と名前をつけているわけではありませんが、ステージ講演会や神父様のお話、各教科のゲストティーチャー、そしてシスターや先生方、友だちとの関わりの中から、自分らしい生き方を模索し始めています。



東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が2015年から10年間にわたって実施してきた「子どもの生活と学びに関する親子調査」を目にする機会がありました。

そこに次のような言葉が載っていました。



「同じ子どもの変化を追跡したところ、およそ3人に1人が小5で希望した職業と同種の職業を高2でも希望していた。ただし、そのように職業希望が一貫している子どもは、「進路を深く考える」経験が少ない傾向にあることも明らかになった。希望が明確であるがゆえに、他の可能性を探るきっかけが少なくなっているのかもしれない。夢を持ち続けることは大切だが、重要なのは早期になりたい職業を明確にすることではない。さまざまな選択肢に触れ、柔軟に進路を考えることも、これからの時代にはより重要になると考えられる。」

子どもたち一人ひとりには神に創られたユニークな存在で多様です。私たち大人にできるのは、考えるきっかけを与え、選択肢を広げること、そして時には一緒に悩み、応援することです。大人の期待や思いもありますが、それを少し胸に留めておくことも、子どもが自由に道を切り開いていくためには必要でしょう。4月にはクラス替えがあります。新たな先生、友だちとの出会いは、子どもが視野を広げるチャンスです。また、ご家庭で「社会のニュース」「世界の動き」といった話題を親子で話すことも、子どもが将来を考えるきっかけに繋がるのではないのでしょうか。初等科の子どもたちは、まだまだ成長過程にいます。これからも、子どもたちが自らの可能性を広げていかれるよう、学校と家庭が共に手を携えて参りたいと思います。

(文中写真：卒業研究発表会より)

3月の行事予定

2日(月)	ハイチデー	13日(金)	ファーストステージ修了式
3日(火)	午前授業	16日(月)	午前授業・6年生を送る会・大掃除
5日(木)	午前授業	17日(火)	1～5年修了式
10日(火)	面談日①・午前授業	18日(水)	卒業式
11日(水)	面談日②・午前授業	20日(金)	春分の日
12日(木)	面談日③・午前授業		

※ 4月8日(火) 始業式
 4月9日(水) 入学式